

## 流出解析ワーキングチーム報告

(第 6 回 WT 会議, H 17. 5. 17), (第 7 回 WT 会議, H 17. 5. 23)

\* 「流出予測 (基本高水)」の算定条件について, 下記の項目に分けて検討することとした.

### 1) 入力降雨条件

#### 1.1) 引伸し方法

- ・ 100 確率降雨として 242 (mm/24h) を採用.
- ・ 無降雨時間が 6 時間 (洪水到達時間) 以上であれば別降雨とする.

#### 1.2) 引伸し倍率と棄却基準 (降雨分布形の作成)

- ・ 引伸ばし倍率に上限 (例えば, 2.0 など) を設ける場合, 引伸ばし倍率の上限値
- ・ 「棄却基準」を適用する場合, 「基準」の設定

#### 1.3) 実績降雨の観測点数と流域分割について・・・ティーセン法の適用

### 2) 斜面 (流域) 条件

#### 2.1) 土地利用状況の設定 (治水対策などに関わる条件設定を除く)

#### 2.2) モデル定数 (有効降雨量の算定に関するモデル定数) の設定

- ・ 飽和雨量  $R_{sa}$ , 1 次流出率  $f_1$  と飽和後流出率  $f_{sa}$  の設定

(第 6 回 WT 会議)

\* 前回 (第 5 回) までの検討結果を踏まえて, 上記の 2.2) 有効降雨量の算定に関するモデル定数 (すなわち, 飽和雨量  $R_{sa}$ , 1 次流出率  $f_1$  と飽和後流出率  $f_{sa}$ ) の設定について検討した. 特に,

- ・ 「地目ごとの飽和雨量の標準値」についての考え方
- ・ 「予測に用いる飽和雨量」の選定と地目ごとの設定方法

について議論し, これに関連して「(同定・再現における) 山林の飽和雨量の算定値」について議論, 検討した.

(第 7 回 WT 会議)

\* 畑委員より「飽和雨量  $R_{sa}$  を, 全ての地目について標準値を基に表現する」方法の提案があり, 検討の結果, 基本的にはこの方法に基づいて流出予測を行うこととした.

\* 上述の方法・考え方に基づいて同定される「山林の飽和雨量」と「既に求められている算定値」とを比較検討するため, まず代表的な実績洪水について試算的に再現・同定を行うこととした. (主査及び副主査で協議)

\* 予測に用いる飽和雨量の値は, 実績洪水の「総雨量と流出高の関係」に基づいて設定することとした.